



## 「日タイ修好120周年記念事業」報告書

*Report on the 120th Anniversary of Japan-Thailand Diplomatic Relations, 2007*



日タイ修好120周年記念事業実行委員会

# 日タイ修好120周年記念事業報告書

## 目 次

日タイ修好120周年記念事業報告書の作成にあたって	1
日本国外務大臣からのメッセージ	2
タイ国外務大臣からのメッセージ	3
日本とタイの交流について	4
ロゴマーク・キャッチフレーズ	5
実行委員会名簿	6
イントロダクション	7
オープニング	7
記念モニュメントの寄贈	9
記念クラシック・コンサート	10
経済シンポジウム	11
日タイ・フェスティバル2007	12
日タイ修好120周年記念教育基金	13
親善大使	13
日本政府派遣事業	13
「日タイ修好120周年」記念切手	14
草の根事業報告	15
日タイ修好120周年記念事業カレンダー	25
決算報告	33
広報及び報道の記録	34
日タイ修好120周年記念募金協力団体一覧	36





## 日タイ修好120周年記念事業報告書の作成にあたって



1887年9月26日、日本の青木周蔵外務次官とタイのテーワウォン・ワローパガーン外務大臣の間で「修好条約ニ閣スル日本国暹羅國間ノ宣言（日タイ修好宣言）」に調印が行われ、その後の通商条約の締結が約束されたことで、日タイ両国の間に近代的な外交関係が樹立されました。日タイ両国政府は、これまでの長い友好と交流の歴史を踏まえつつ、将来に向けた一層の関係強化を図るため、外交関係樹立から120周年に当たる2007年を修好120周年の交流年として祝うことに合意しました。これを受け、この日タイ修好120周年を広く盛り立てていくため、両国に実行委員会が設立されました。

日本側実行委員会では、様々な記念事業を自ら企画するとともに、各種団体の実施する事業と緊密に協力し、120周年の大きな盛り上がりを確保するべく図ってきました。幸いにも、多くの法人及び個人から、本120周年の趣旨に温かい理解と賛同を頂くことができ、その結果、一年を通じて合計340件もの多数の記念事業が行われるとともに、今後の日タイ関係の進展にとって最も重要な要素となる両国民民間の相互理解と交流に大きく資するものとなりました。御協力頂きました皆様方には、この場をお借りして改めて深く御礼申し上げます。

この度、日タイ修好120周年の終了に際して、当実行委員会では修好120周年を総括する報告書を作成しました。ページ数の関係もあり、全ての記念事業を紹介することは残念ながらできませんが、多様な交流事業の一端に触れて頂けるものと確信しております。また、本報告書が今後の皆様方の交流活動に対する一助となれば、望外の喜びです。



既に御承知の方も多いと思いますが、日タイ修好120周年に際しては、記念ロゴマークとキャッチフレーズを公募しました。最終的に、ロゴマークには、両国を代表する花である桜とラーチャブルックを用いた意匠が採用され、また、キャッチフレーズについては、「微笑みが心をつなぐ愛のかけ橋」が採用されました。修好120周年の交流を通じて日タイ両国にかけられた微笑みの橋が、両国の将来に繋がる友好の橋として引き続き大きな役割を果たしていくことを期待しております。

日タイ修好120周年記念事業実行委員会  
委員長 安居 祥策





## 日本国外務大臣からのメッセージ



本年12月、ブミポン国王陛下が御誕生80年を迎えたことに、心よりお喜び申し上げます。このような喜ばしい年に、日タイ両国が修交120周年を祝う事ができたことを嬉しく思います。

本年、日タイ両国は近代的な外交関係を樹立してから、120年目を迎えました。両国では、長い友好の歴史を基盤としつつ、未来に向けて関係を一層飛躍させるべく、この一年を日タイの交流年と位置づけ、様々な交流事業を実施してきました。その結果、両国で多くの団体や個人の参加と協力を得て、この一年で300件を超える記念事業が実施されました。

様々な記念事業を通じて深まった両国民間の絆は、本年秋に発効した日タイ経済連携協定と相まって、今後の両国関係を牽引する上で大きな力となるものと確信します。

日タイ修交120周年記念事業に御協力いただいた両国の関係者の皆様に深く御礼申し上げるとともに、両国関係の発展のために、私自身も引き続き皆様方と共に取り組んでいきたいと思います。

平成19年 12月

日本国外務大臣

玄村 ひろし



## 日本国外務大臣からのメッセージ

(Unofficial Translation)

さらなる发展をめざすタイの政治家として、私はこの機会に、日タイ修交120周年を祝うことを喜んでいます。

タイは、1987年に日タイ修交120周年を記念して、タイの政治家として初めて訪日した際、私は、この機会に、日タイ修交120周年を祝うことを喜んでいます。

私は、この機会に、日タイ修交120周年を祝うことを喜んでいます。

私は、この機会に、日タイ修交120周年を祝うことを喜んでいます。

マサヒコ・コムラ  
日本国外務大臣  
2007年12月

## タイ国外務大臣からのメッセージ

สารจากนายนิตย์ พิบูลส่องคราม

รัฐมนตรีว่าการกระทรวงการต่างประเทศแห่งราชอาณาจักรไทย

ไทยและญี่ปุ่นได้สถาปนาความสัมพันธ์ทางการทูตระหว่างกันเมื่อวันที่ ๒๖ กันยายน ๒๔๓๐ โดยลงนามใน “  
ปฏิญญาความต่อสู้ทางพระศาสนา” ในการค้าขายในระหว่างประเทศไทยและญี่ปุ่น”

รัฐบาลของทั้งสองประเทศจึงตกลงให้ปี ๒๕๕๐ เป็นปีแห่งการฉลองครบรอบ ๑๒๐

ปีแห่งการสถาปนาความสัมพันธ์ทางการทูตระหว่างประเทศทั้งสอง

ซึ่งประจวบเหมาะกับวาระการสัมมนาทางคลังดีจะพระบาทสมเด็จพระปรมินทรมหาภูมิพลอดุลยเดชทรงเจริญพระชนมพรรษาครบ ๘๐ พรรษา ปี ๒๕๕๐

นี้จึงเป็นปีมหามงคลอย่างแท้จริง

แม้ว่าประเทศไทยและญี่ปุ่นจะมีได้มีดินแดนเชื่อมต่อกัน และตั้งอยู่ห่างกัน มีมหาสมุทรระหว่างกัน

แต่จากหลักฐานทางประวัติศาสตร์ ความสัมพันธ์ระหว่างกันได้ดำเนินมาอย่างนานกว่า ๕๐๐ ปี หรืออาจ

๕๕ ศตวรรษก่อนการสถาปนาความสัมพันธ์ทางการทูตอย่างเป็นทางการ โดยเริ่มต้นจากการติดต่อ

ค้าขายกันทางเรือสำเภาและการไปมาหาสักกันระหว่างประเทศไทย - ญี่ปุ่นซึ่งมีการพัฒนามาเป็นลำดับ

ตลอดระยะเวลา ๑๒๐ ปี ที่ผ่านมา ทำมาหากายสภาพแวดล้อมในประเทศไทยและระหว่างประเทศที่เปลี่ยนแปลง

พัฒนาการของความสัมพันธ์ซึ่งตั้งอยู่บนฐานของผลประโยชน์ในเชิงร่วมกันที่ได้ดำเนินไปอย่างต่อเนื่อง

ทั้งสองประเทศยังคงมีความสัมพันธ์ที่สุดในร่วมกัน การท่องเที่ยวซึ่งกันและกัน

และหนึ่งสิ่งที่สำคัญคือความเข้าใจอันเป็นรากฐานของความสัมพันธ์ที่มีมาร์ทั้งแท้

และนับวันความสัมพันธ์ดังกล่าวมีแต่จะก้างขวาง สืบทอดและแนะนำตนในทุกรั้งดับ ดังแต่รั้งดับ พระราหวังศ์ รัฐบาล ภาคธุรกิจ

และประชาชน

ในปี ๒๕๕๐ นี้ ไทยและญี่ปุ่นยังได้เจริญก้าวใหม่แห่งความสัมพันธ์ด้วยการลงนามในความตกลง

ว่าด้วยความเป็นหุ้นส่วนทางเศรษฐกิจหรือ JTEPA ซึ่งครอบคลุมการเปิดเสรีด้านการค้า การลงทุน

รวมทั้งการส่งเสริมความร่วมมือในสาขาที่หลากหลาย

สะท้อนศักยภาพในการขยายความสัมพันธ์ที่ไว้ขอบเขตระหว่างประเทศไทยและญี่ปุ่น

และได้วางรากฐานที่มั่นคงและยั่งยืนในทุกมิติ

ความสัมพันธ์อันดีและความเป็นหุ้นส่วนที่ใกล้ชิดต่อไปในภายหน้า

ภาคหน้า

นับจากนี้ ไทยและญี่ปุ่นยังต้องเผชิญกับความท้าทายไม่ว่าจะในบริบทของความสัมพันธ์ระดับ

ทวิภาคี ภูมิภาค และระดับโลก โดยเฉพาะการพัฒนาความร่วมมือในภูมิภาคเอเชียตะวันออก

ซึ่งทั้งสองประเทศมีบทบาทที่สำคัญยิ่งตลอดมา ขาดเจ้าเชื่อมั่นว่าไทยและญี่ปุ่นจะสามารถก้าวไปข้างหน้าร่วมกันได้โดยราบรื่น

ด้วยความมุ่งมั่นและความตั้งใจของประชาชนของทั้งสองประเทศ

ความสัมพันธ์อันดีและความเป็นหุ้นส่วนนับวันจะเพิ่มพูนขึ้นและดำเนินยั่งยืนต่อไปนานนานเท่านาน



นายนิตย์ พิบูลส่องคราม  
รัฐมนตรีว่าการกระทรวงการต่างประเทศแห่งราชอาณาจักรไทย

## タイ国外務大臣からのメッセージ

タイと日本は1887年9月26日、「日暹（にちせん）修好通商に関する宣言」（日タイ修好宣言）の調印により正式に外交関係を樹立したので、両政府は2007年を日タイ修好120周年として祝賀することで合意しました。喜ばしいことに2007年はタイ国王陛下御生誕80周年もあり、誠に慶祝すべき年であると言えます。

タイと日本の間には隣接した国境がなく、長い距離と太平洋で隔てられていますが、歴史的資料によれば、両国の交流は500年以上、つまり正式な国交が樹立される4世紀も前から続いています。初期の帆船による貿易や国民の往来から始まり、現在まで日本とタイは良好な関係を築いてきました。

ここ120年の間、目まぐるしく変動する国内及び国際環境の中、相互利益という概念に基づいた日タイ関係は絶えることなく発展し続けてきました。両国は共助、そして最も重要であり、眞の友好関係の基礎である相互理解という原理が明るい未来に繋がると確信しており、そのような関係は王室・皇室、政府、民間、そして国民と、各レベルにおいてより広く、深く、緊密になっていくばかりです。

2007年、タイと日本は日タイ経済連携協定に調印することによってさらに両国の関係の新たなチャプターを切り開きました。貿易、投資及び様々な分野における協力を包括した本協定は、日タイ両国間に存在する無限の可能性を反映し、未来に向けてより緊密な連携への安定した基盤を提供するものであります。

これからもタイと日本は二国間レベル、地域間レベル、そして国際レベルにおいて、様々な挑戦に直面することでしょう。特に、これまで両国が重要な役割を担ってきた東アジアにおける協力、発展は大変重要な課題です。両国民の意志と努力により、タイと日本が共に未来に向かって歩み、両国の良好な関係や連携が日に強まり、永続すると確信しております。

タイ国外務大臣  
ニット・ピブンソンクラーム

# 日本とタイの交流について

## 長い交流の歴史

文献によると日本とタイの交流は、600年前にさかのぼるといわれます。当時は、御朱印船による対タイ交易を通じて、首都アユタヤには、日本人町が形成されていました。この民間の交易の他に、徳川幕府とアユタヤ朝の間でも献上品や書簡の交換が行われていましたが、正式な国交を基礎としたものではありませんでした。しかし、このような交流も徳川幕府による鎖国令により衰退していきました。

18世紀、欧米列強によりアジアの独立国が植民地化される中、日本が明治維新により近代国家建設を開始したのとほぼ時を同じくして、アユタヤ朝、トンブリー朝を経てラッタナコーシン朝となつたタイ王国は、ラーマ5世の下で国家の近代化を図りつつ、独立を維持しました。

まさにこの時期、日本とタイは正式な国交を開始しました。すなわち1887年（明治20年）9月26日、「日暹（にちせん）修好通商に関する宣言」（日タイ修好宣言）により、正式に国交が開かれたのです。この宣言は、両国が国交を結び、通商・航海を奨励し、将来の条約をもって詳細を規定するという簡単で抽象的な内容のものでしたが、これは明治の日本政府が東南アジア諸国と外交関係を結んだ最初の条約でした。

## 緊密な両国の関係

日本の皇室とタイの王室との間の親密な往来は、良好な日タイ関係の象徴として両国で広く知られています。1991年、天皇皇后両陛下は、御即位後の初の外国訪問においてタイを御訪問されたのに続き、2006年にも、ブミポン国王陛下の御即位60周年記念式典への御出席のためタイを訪問されました。タイからも、2006年にシリントン王女殿下及びチュラボン王女殿下が国際会議での御講演及び御研究のために来日されたのが始めとして、王族の方が多数訪日されています。

両国間では政治レベルでも活発な往来があります。最近では2005年にタクシン首相（当時）が来日した他、2007年にはスラユット首相が来日しました。スラユット首相の訪日に際しては、タクシン首相の訪日時に大筋合意に達した日タイ経済連携協定への署名が行われました。日タイ経済連携協定はその後、2007年11月に発効し、今後の両国の経済関係を大きく飛躍させることに貢献することが期待されています。

両国民間の交流は、良好な日タイ関係を支える最大の土台となっています。今日、タイを訪問する日本人の数は年間約130万にも達しており、タイを訪問する外国人としては、タイの隣国であるマレーシアを除くと最も多い数字となっています。他方、タイからの日本訪問者数も大きく伸びており年間約20万人となっています。最近では花見や雪祭りを目的とするツアーにも人気があるようです。

また、タイ国内には1250社を越える日系企業が加盟する日本商人会議所があり、タイ国内全体では約4万人もの日本人が滞在していると言われています。他方、日本国内では約2,000人ものタイ人留学生が学習しており、両国にとって相手国における人的交流の面で大きな役割を果たしています。



# ロゴマーク・キャッチフレーズ



## 微笑みが心をつなぐ愛のかけ橋 日タイ修好120周年

### 応募数

ロゴマーク:39件 キャッチフレーズ:64件

### 募集期間

2006年5月19日～8月10日

### 審査日

2006年9月7日、両国の記念事業実行委員会にて採択されました。

### 審査基準

1) 独創的であること 2) 広報効果が高いこと 3) わかりやすいこと



### 採択理由

#### ロゴマーク

日タイの友好関係が、両国の国花によって表現されているため。また、両国を表すシンボルが取り入れられ、修好120周年ということが印象深く表現されている。

#### キャッチフレーズ

心と心の通い合った日タイ関係を表現し、日本とタイの修好120周年であることがシンプルにわかりやすく、フレーズのひとつに取り込まれている。

### 作者による 作品解説

#### ロゴマーク

杜多利香さん (デザイナー助手)

「タイ王国の国花『ラーチャブルック』と日本の国花『桜』を、手をつなぐような輪で表したデザイン。それぞれの国の風土を象徴する国花で日本とタイの人々の華やかな笑顔をイメージし、友好を表現しました。」

#### キャッチフレーズ

新井理香子さん (デザインコンサルタント  
ウエルケンアライド株式会社代表)

「私とタイとの最初の出会いはアメリカの学生時代です。キャンパスアパートでのルームメイトは4人のタイ人女性でした。そのうちの一人は、夏の間研修にきていた40才前後の写真の先生でした。彼女は時には大笑いもするけれど、いつも微笑んでいたのがとても印象的な人。その見守るような微笑みに、私はたびたび助けられました。微笑みによって、愛に満ちた世界になりますよう心より願いをこめて。」

### 採用に ついての 感想

#### ロゴマーク

杜多利香さん

「ロゴマークを採用していただき、ありがとうございます。タイと日本の修好120周年記念という節目にデザインを通して参加することができ、嬉しく思います。今回ロゴマークを創るにあたってタイについて調べているうちに様々な魅力を知りました。両国にとって120年記念ですが、私にとっては興味の始まりの記念になりました。」

#### キャッチフレーズ

新井理香子さん

「常に『微笑みの人』だった父が亡くなつて今年でちょうど7年。銀行でたまたま手にとった小冊子に、日タイ修好120周年の記事があり、なぜかとても気になり応募しました。いつものように微笑む父が夢に現れてから数日後、『キャッチフレーズとして採択されました』というメールを突然いただいたので、驚きました。」



# 実行委員会名簿

## 『日タイ修好120周年記念事業』実行委員会

委員長 安居 祥策 中小企業金融公庫総裁、前日タイ貿易経済委員長

副委員長 石井 米雄 人間文化研究機構機構長

顧問	丹羽 宇一郎	日タイ貿易経済委員長、伊藤忠商事株式会社取締役会長
	中村 利雄	日本商工会議所専務理事
	萩原 敏孝	(社) 経済同友会アジア委員会委員長、株式会社小松製作所取締役会長
	赤木 攻	(独) 日本学生支援機構参与・東京国際交流館長

委員	島上 清明	(社) 日本経済団体連合会日タイ経済連携スクワース座長、株式会社東芝常任顧問
	末松 謙一	(財) 日本タイ協会会长、株式会社三井住友銀行名誉顧問
	石坂 芳男	(財) 日本タイ協会副会長、トヨタ自動車株式会社相談役
	相原 元八郎	(財) 日本タイ協会副会長、三井物産株式会社副社長
	鈴木 直道	(社) 日タイ経済協力協会理事長
	末廣 昭	東京大学社会科学研究所教授
	新町 光示	(社) 日本旅行業協会会长、株式会社ジャルパック代表取締役会長
	林 康夫	(独) 日本貿易振興機構理事長
	間宮 忠敏	(独) 国際観光振興機構理事長
	香山 充弘	(財) 自治体国際化協会理事長
	小倉 和夫	(独) 国際交流基金理事長
	緒方 貞子	(独) 国際協力機構理事長
	田波 耕治	国際協力銀行総裁
	佐藤 行雄	(財) 日本国際問題研究所理事長
	赤尾 信敏	国際機関日本アセアンセンター事務総長

